

## ○子ども達の規範意識の状況と道徳教育について

1) 学校教育においては、学習指導要領の移行期間が始まり、その趣旨を踏まえた児童生徒の「知・徳・体」にバランスのとれた取り組みが進められている。今回は「徳」の中で「規範意識」について伺う。最近、子ども達の規範意識について不安を感じている人も多いと思われる。実際、日本の児童生徒の規範意識については、世界的な意識調査の中でも、低い結果が見られている。子どもたちの規範意識の低下は、人々が安心して暮らせる、よりよい社会をつくっていくためにはもとより、何よりも子どもたちの健やかな成長を期するため、決して見過ごすことのできない問題である。今では、情報化により、ネット上のいじめや炎上に、深く考えずに乗っかってしまい無意識に人を傷つけることもある。そこで道徳教育において、子ども達の規範意識を高めることは非常に重要であると考え。そのためにも様々な指導の手立てが必要であると考えるところだが、現在の帯広市の児童生徒の規範意識の実態とネットモラル等に向けた指導の実態について伺う。

A) 平成29年度の全国学力学習状況調査における「児童質問紙」の規範意識にかかわる設問において、小学校6年生、中学3年生でいずれも「そう思う、どちらかと言えばそう思う」も含めた回答割合は、「学校の決まりを守っているか」については、小学校では、全国92.6% 本市90.4% 中学校では、全国95.2% 本市94.5% 「友達との約束を守っているか」については、小学校では、全国97.2% 本市96.6% 中学校では、全国97.4% 本市97.1% 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」では、小学校では、全国96.1% 本市95.9% 中学校では、全国92.8% 本市94.0% など全国とほぼ同様の結果がみられている。ネット上のモラルも含めたきめ細やかな指導については、道徳や学活、中学校においては技術科の時間の情報分野で発達段階に応じた指導に努めている。

2) 調査の結果を伺いました。まだまだ高める余地はあると思う。指導においても、子どもたちの実態を見てそれぞれの課題を明確にしなければならない。学校という集団生活や社会の中で、規則やマナー、善悪の判断などのモラルといった基礎的な規範意識についてはしっかりと身に付ける必要があると思う。では、帯広市の道徳授業について、教科化による指導状況の変容やその道徳性を高めていく効果について伺う。

A) 「特別な教科 道徳」として実施される 具体的なポイントとしては、ご指摘の通り「道徳の検定教科書が導入されること」「評価を行うこと」に加え、「個性の伸長」「相互理解、寛容」「よりよく生きる喜び」などの内容項目が追加され、いじめ問題への対応の充実や児童生徒の発達段階をより一層踏まえた体系的なものに改善されている。学校では、教科書をもとに、子どもの発達段階の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の子どもが自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図った授業を進めている。

3) 道徳科において養うべき道徳性については、人格全体にかかわるものであり、子どもの学習状況や道徳性にかかわる成長の様子を様々な方法でとらえて、日常的な個々の子どもの成長を促すとともに、それによって教師自身が自らの指導を評価し、改善に努めることも示されている。このたびの教科化により、内容の充実が図られていても、規範意識の醸成は週1時間だけの道徳の授業では、時間的な限界があると思われる。こうした道徳の取組での学習効果はどこまで期待できるものになるか。

A) 「特別の教科 道徳」については、学習指導要領で「子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。」と示されている。道徳の授業には、問題解決的で体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫することなど、日常的な授業の改善を図り、自分と向き合い生き方を見つめるなど、自分と対話出来るような組み立てにより、子どもたちの豊かな成長が期待されているところ。

4) 指導方法については確認した。子ども達の規範意識を高めるためには、社会や集団生活の中でいろいろな人と関わっていくことで育てていくものなので、学校だけの対応には限界がある。何でも学校だけで取り組みを考えていくのではなく、学校でできることを構想したうえで、それ以外を家庭や地域社会と連携して行っていかなければならない。そこで、保護者や地域とどう連携していくのか。今後の考えを伺う。

A) 道徳の学習の効果を高め、道徳的な実践力を身につけるためには、学校の授業だけではなく、家庭や地域との連携が不可欠だと考える。そのためには学習指導要領の趣旨をはじめ、道徳の教科化や指導内容、評価等、保護者への十分な説明を図りながら、何より学校で行われる道徳の授業を広く保護者の方に見て頂くなどの工夫を図りながら進めていくことが大切である。今後も、各学校での道徳の取組内容を、保護者に対してわかりやすく説明ができるよう、教育委員会からの指導・助言や資料提供を進めるなど、学校への支援に努める。

まとめ) テレビを見ていてもわかる通り、大人社会のモラルの低下が原因である。不正や規則違反を許容してしまう風潮や義務・責務を忘れ、自由と利己主義とを履き違える風潮、正直さ、誠実さを軽視するような風潮は家庭のしつけのゆるみを招き、子ども達の規範意識に低下を助長している。社会を震撼させるようなニュースが増えている現在、その中には少年や少女が事件を起こしたものと巻き込まれたものなどといった関連した事件も多数ある。こういった事件が起きないようにするためにも、幼いころからの規範意識の醸成が非常に重要ではないかと考える。いじめ問題、非行や犯罪の防止という観点からもしっかりと取り組んで頂きますようお願い。

#### ○帯広の森テニスコート場の利用状況及び整備について

1) 中学校の部活動のテニスは日本発祥のソフトテニスが主流である。錦織圭選手など

の活躍を背景に、中体連で硬式のボールを使うテニス部が設置される見通しとなった。早ければ3年後に加わるとのこと。こうした動きにより今後、テニス人口も増えていくことが考えられる。そこで、4月21日～10月31日までの営業を開始した帯広の森テニスコートの利用現状について伺う。

A) 直近3ケ年の利用状況としては、平成26年度96,625人、平成27年度90,763人、平成28年度89,482人となっている。

2) 残念ながら利用人口は年々減少しているようである。帯広の森テニスコートは平成12年4月に開場してから、相当な年数が経過している。そこで、テニスコート場の整備についてはどうなっているのか。また、使われている芝などの痛み具合はどうか

A) 帯広の森テニスコートは、砂入り人工芝で南側に10面、北側に10面があり、南側コートは夜間照明設備が付いていることから、使用頻度が高い。南側コートのうちクラブハウスに近い3面の摩耗が特に激しく、このため指定管理者が応急的に修繕を行ったところ。

3) 3面の摩耗が激しいとのこと。では、今年、帯広の森テニスコートで開催されるテニス大会のうち、参加人数の多いものとしては、どのような大会があるのか。

A) 参加人数が多い大会としては、今月連休中に開催された「北海道ジュニア選手権道東ブロック予選大会」や明日からの「高体連十勝支部予選会」といった大会が挙げられる。

4) 今、伺ったような大規模なテニス大会を開催する場合、現状のコート場でどのような影響があるのか伺う。

A) 競技団体からの話では、応急修繕を行ったコートは、練習はまだしも試合での使用は厳しいと伺っており、大規模な大会の場合、試合数も多くなることから、残りの17面のコートで試合を消化しなければならず、その分、大会の開催時間が長くなると言っ

た影響があると思われる。これまでも参加人数の多い大会では、帯広の森テニスコートのほかに南町テニスコートや自由が丘庭球場を一緒に使うなど工夫してもらっており、複合的な施設利用が必要と考える。

5) 最後に、今は応急修繕で対応しているが、いつまでもそうはいかないと思う。先ほどの答弁での影響も考え、帯広の森テニスコート場の今後の改修の考え方について伺う。

A) 使用頻度の高い南側コート 10 面については、競技団体からも修繕要望を受けており、スポーツ振興室としてもその必要性を十分認識しているところ。今後の状況や施設の在り方を検討していくなかで、併せて考えていく。